

せとまちトーク進捗管理シート

下品野 連区

テーマ

・安心安全なまちづくり(避難所について)

課題・問題点の背景・理由

- ・防災倉庫の点検
- ・個別避難(高齢者)
- ・メガソーラーによる災害リスクの増大
- ・避難所が遠すぎて実際に避難できない
- ・交流センター南側の通学路は大雨の時に冠水し通れない。また、駐車場からも歩いて通れない。

解決手法

【行政】

【地域】

【その他】

<ul style="list-style-type: none"> ・分散型避難を考えてほしい ・地域特性を考えると公平性は担保されていない ・個別避難計画の策定とは 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の避難所の確保 ・避難防災のテーブル作り ・若い力を活用(中学生以上) ・自主防災力の強化(ソフト面) 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間施設との協定を結び自宅から近い避難所に
---	---	--

関係する常任委員会

総務生活委員会

せとまちトーク後の経過、及び調査検討結果

課題・問題点の中で、特に2点個別避難(高齢者)の課題と(指定避難所に)避難できないについては、市役所危機管理課の考え方を確認しました。

1点目、「(指定避難所に)避難できないときに、個別避難はどのように考えていますか。」とのご質問ですが、令和2年度以降、風水害時の分散避難を想定し、市内3つのホテル、名古屋学院大学、市内14カ所の寺院と災害時応援協定を締結いたしました。風水害が間近に迫る場合、瀬戸市から風水害時の指定避難所も含めた避難可能な場所について、瀬戸市安全安心情報メール、市ホームページ、コミュニティFMを通じて、住民へ情報発信をいたしてまいります。また、避難所への避難だけでなく、安全な場所にお住まいの親戚や知人宅へ避難するなど、多様な避難を検討していただくよう市民へ啓発を行っております。

2点目、「通れないことについてどのような対応をしていますか。」とのご質問ですが、台風を含めた風水害時の災害は、気象情報を入手することによって、台風や豪雨などの接近前(災害が発生する前)に対応することが可能です。ハザードマップ上において土砂災害警戒区域や浸水想定区域等にお住いの方は、気象情報に気を配りつつ、避難情報が出たときは、速やかに避難をしてください。(冠水してからは、避難所へ無理に避難してはいけません。)

なお、愛知県の調査結果に基づく水害ハザードマップが完成したのが、令和2年6月であるため、平成31年4月に下品野地域交流センターが竣工した後に、浸水想定区域が判明したものです。

【補足】